

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【七栄小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童，中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」，「算数」，「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

* 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）児童に対する質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する調査

* 調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について （※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」，「書くこと」，「読むこと」，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて，その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領第2章第3節算数における，「数と計算」，「量と測定」，「図形」，「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

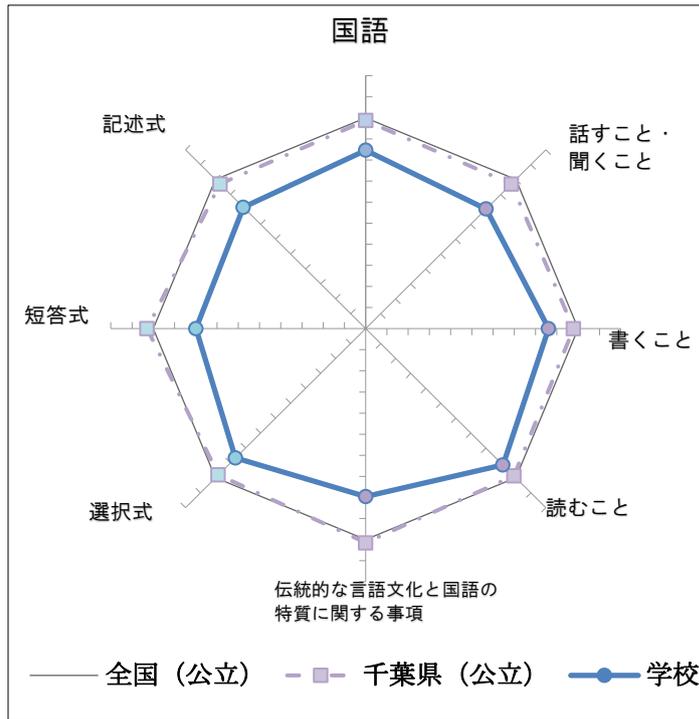
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



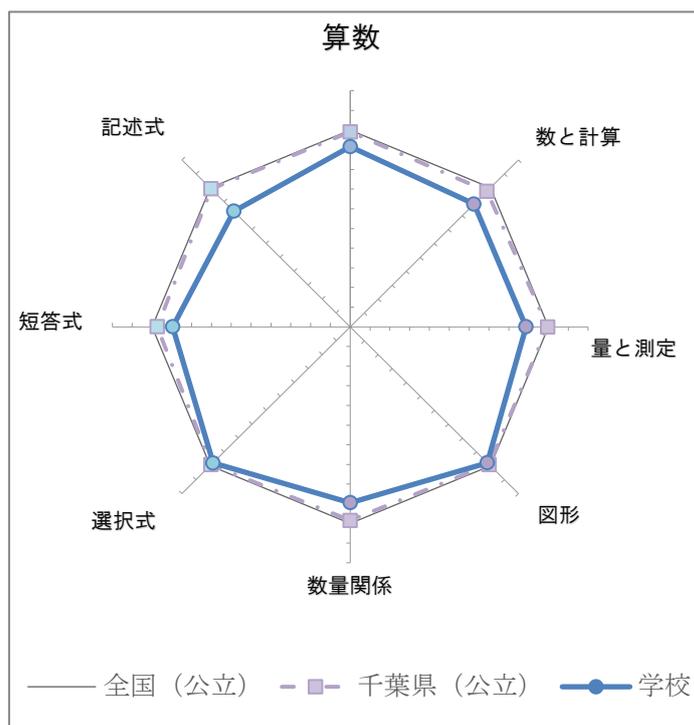
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 記述式の問題から、自分の考えを明確にする問題では、全国平均とほぼ同じ正答率でした。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、昨年度とほぼ同様の正答率ですが、他の領域では正答率が全国平均に比べ、下回っています。
- 「短答式」の形式において、接続語を活用した正答率が大きく下がっています。
- 文の中で漢字を正しく使うことについて課題があります。
- 目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を工夫して考えることに課題があります。
- 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読むことに課題があります。

【改善方策等】

- 漢字の読み書きについては、繰り返し練習して身につける必要があります。基礎的な問題を繰り返し解くドリル学習を、さらに充実させてまいります。また、小テストを実施したり、「とみの国検定」の合格を目標にしたりして、児童の意欲を継続させていくように努めてまいります。
- 日常生活で使われる慣用句の意味を考えたり、主語・述語の関係に目を向けて文を書いたりする活動を積極的に取り入れ、言語についての知識・理解・技能の力の向上を目指します。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を継続させてまいります。
- 全体的に正答率が低い原因の一つとして、読む力が不足していることが考えられます。文章を漠然と読むのではなく、「詳細を読み取る」、「素早く読み取る」等、児童一人一人が課題意識を持ちながら読む活動を取り入れ、読解力の向上を図る指導を心がけてまいります。

算 数



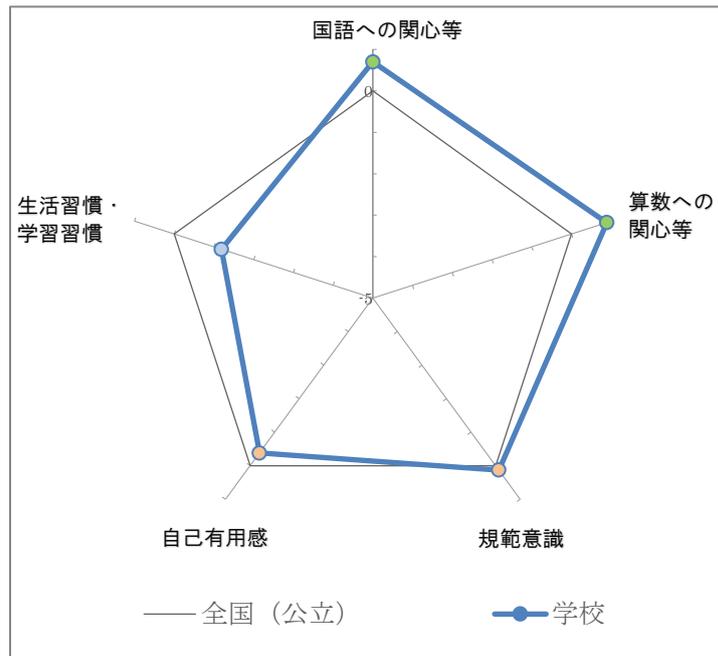
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がやや下回っています。
- 二つの台形を移動・回転・反転し、図形の構成要素に着目して、できる形を選択する問題では、正答率が全国平均を上回っていました。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題において、正答率が全国平均を上回っていました。
- 図形の面積の求め方を解釈し、説明を記述する問題において、正答率が全国平均とほぼ同じでした。
- 資料の特徴や傾向を関連づけ、理由を記述する問題において、全国平均を下回っていました。
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算問題において、全国平均を下回っていました。
- 観点別、数学的な考え方における記述問題について課題があります。

【改善方策等】

- 問題文を読み、一つ一つの数値が何を表しているかを丁寧に確認したり、説明したりする活動を充実させてまいります。
- 一般的な、「問題文」→「立式」→「答え」という流れにとどまらず、式から問題文を作ったり、それらを見童相互で解いたりするなど、考えを深める学習を取り入れてまいります。
- 日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させる必要があります。
- 問われていることが何かを適切に判断するためには、問題文を読む力が求められます。国語と同様、文章を読んで要点を正しく読み取る指導を心がけてまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「将来の夢や目標を持っていますか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っており、夢や目標を持って生活している児童が多いことがわかりました。
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」で「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と自覚している児童の割合は、全国平均を上回っていました。昨年度後半から、たてわり活動の中に、たてわり清掃も取り入れ、高学年児童が、下学年の児童が困っている際に、手を差し伸べる場を設定したことで意識できるようになりました。
- 学校の授業時間以外での「一日あたりの勉強をする時間」で、「30分以上、1時間より少ない」と回答した児童の割合が多いことがわかりました。
- 算数に関する質問（58問中11問）では、「当てはまる」と肯定的な回答をする児童が多いことがわかりました。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「読解力」の向上に努めてまいります。また、目的に応じて話し合ったり文章を書いたりする活動も充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。

「算数の授業の内容がよくわかる」「算数が好き」と肯定的に回答している児童が昨年度に比べ増加していることで、算数調査の結果も昨年比べて伸びています。生活習慣・学習習慣における習慣化を身につけていくこととともに、学校での出来事を話題にしたり、地域の活動に参加したりする機会を増やす等、学校・家庭・地域との連携を図り「地域とともに歩む学校づくり」に取り組んでいくことが今後も必要となります。さらなるご家庭でのご支援をお願いいたします。